

児童の部活動参加と運動等習慣の GRIT、SES得点への効果および体力への影響

©中野貴博, 水野太智, 後藤晃伸 (中京大学)

目的

運動は子どもに様々な効果をもたらし、体力向上はその最たるものであるだろう。加えて、近年では諸々の教育的効果を検討することの重要性も示されている。背景には体力向上のみを目指した運動促進では、社会に対するインパクトや価値づけとして不十分になってきていることがある。そこで本研究では、子どもの運動習慣と、教育的効果の指標としてGRIT、SES（社会情動的スキル）との関係を検討することを目的とする。

調査対象

(調査対象)

愛知県N市の市内全16区の平均規模（学年2クラス程度）の公立小学校を各1校抽出。計16校の4～6年生児童3465名。同意が得られ（回収率59.5%）、かつ適切な回答の得られた2037名（58.8%）の内、性別が回答されていた1857名（53.4%）を分析対象とした。

表1. 対象者の性・学年別内訳

学年	男子	女子	合計
4年生	325	345	670
5年生	314	291	605
6年生	321	261	582
合計	960	897	1857

調査・測定項目（分析項目）

（調査・分析対象項目）

8つの大問からなる質問紙を作成。その内、本研究では、以下の内容に関連する項目について分析検討を行った。また、調査の冒頭には、調査に関する説明文書を付し、調査の回答への同意を得た。

【従属変数】

- GRIT (GRIT short version 8項目)
- 社会情動的スキル (SES) (山田ら, 2023 の尺度21項目)

【独立変数】

- 部活動参加 (2項目)
参加の有無および運動系参加の有無, 部活動参加回数 (最大0~3日)
- 運動習慣項目 (9項目)
運動時間 (平日/週末), 運動の好き/嫌い, 運動の得意/苦手
よく遊ぶ友達の数, 体を使った遊びの度合い,
休み時間の外遊び実施, ゲーム実施時間 (平日/週末)
- 新体力テスト (8項目, 4年生は5項目のみ実施)
各項目を性・学年別に偏差値化し, 全項目の平均偏差値を体力偏差値

分析方法（データ加工）

【分析データの加工】

1. GRITおよびSESスコアの算出

- GRITスコア：8項目（5件法）の評価得点の単純和（40点満点）
- SESスコア：21項目（5件法）の評価得点の単純和（105点満点）
※. 逆転項目に関しては数値を逆転させて計算

2. 運動等習慣項目の群分け

- よく遊ぶ友達の数 ⇒ G1：5人以上，G2：3～4人，G3：1～2人
- 体を使った遊びの度合い ⇒ G1：体を動かす遊びの方が多い，
G2：同じぐらい，G3：体を動かさない遊びの方が多い
- 運動時間（平日/週末） ⇒ G1：0～30分未満，G2：30～60分未満
G3：60～120分未満，G4：120分以上
- ゲーム時間（平日/週末） ⇒ G1：0～30分未満，G2：30～60分未満
G3：60～120分未満，G4：120分以上

3. 体力偏差値の算出

- 各項目を性・学年別に偏差値算出 ⇒ 全項目の平均偏差値 = **体力偏差値**

分析方法（解析手続き）

【データ解析手続き】

1. 部活動参加状況によるGRIT, SESスコアの違い

- 部活動参加によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ t検定
- 運動部活動参加によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析
- 部活動参加回数/週によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析

2. 運動等習慣によるGRIT, SESスコアの違い

- 運動時間（平日/週末）によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析
- ゲーム時間（平日/週末）によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析
- 運動が好き, 運動が得意によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析
- よく遊ぶ友達の数, 体を動かす遊びの頻度, 休み時間の外遊び頻度によるGRIT, SESスコアの差の検定 ⇒ 分散分析

※. いずれも性別を加えた二要因分散分析

3. 運動等習慣およびGRIT, SESスコアの違いによる体力の違い

- 運動習慣およびGRIT（27点）, SES（79点）が良好/不良の2群に分類
- 運動習慣×GRIT, 運動習慣×SESの良好, 不良の組み合わせで4群を形成
- 4群間での体力偏差値の差を検定 ⇒ 分散分析

結果（部活動参加×GRIT）

表1. 部活動参加×GRIT

		平均値	標準偏差	t 値	自由度	p 値
GRIT	参加	26.12	3.139	1.011	1963	0.312
合計	不参加	25.97	3.319			

表2. 運動部活動参加および参加回数×GRIT

		平均値	標準偏差	自由度	平均平方	F 値	p 値
GRIT 合計	運動系所属	26.08	3.09	3	26.023	2.551	0.054
	文化系所属	26.67	3.37				
	運動系&文化系所属	25.90	3.11				
	所属なし	25.94	3.30				
GRIT 合計	週3回	26.61	3.145	3	14.898	1.515	0.209
	週2回	26.1	3.095				
	週1回	26.1	3.151				
	所属しているがほとんど 参加していない	24.88	3.314				

部活動参加状況による、GRITスコアの差は確認されなかった

結果（部活動参加×SES）

表3. 部活動参加×SES

		平均値	標準偏差	t 値	自由度	p 値
SES	参加	75.06	10.143	-0.099	1895	0.921
合計	不参加	75.11	10.989			

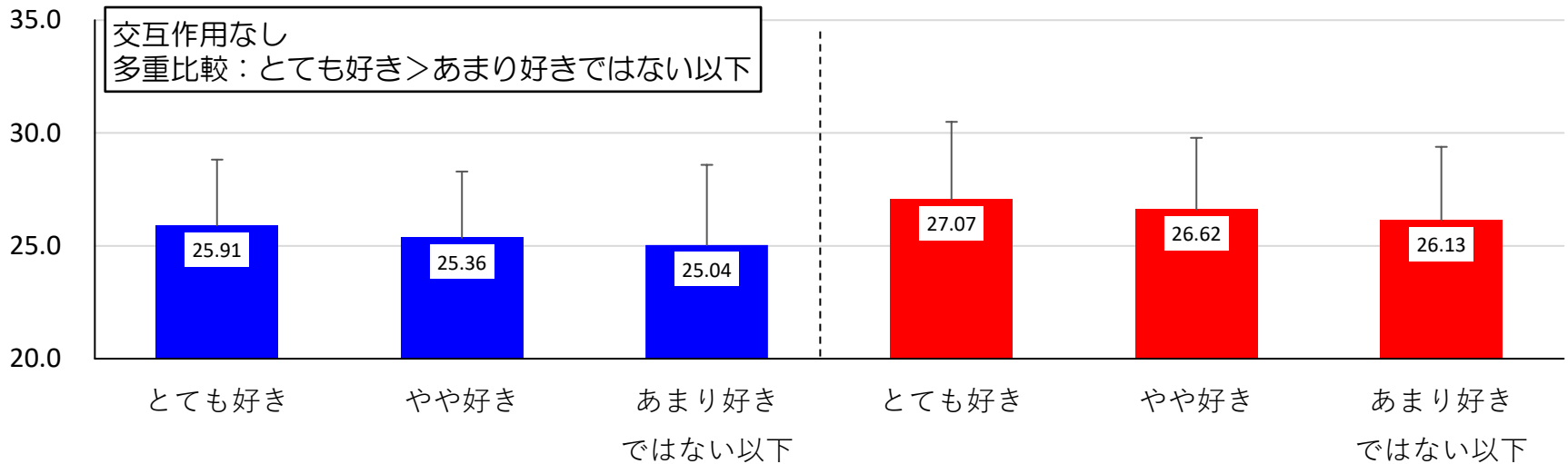
表4. 運動部活動参加および参加回数×SES

		平均値	標準偏差	自由度	平均平方	F 値	p 値
SES 合計	運動系所属	74.75	10.11	3	191.130	1.742	0.156
	文化系所属	76.53	10.21				
	運動系&文化系所属	76.07	9.48				
	所属なし	74.96	11.17				
SES 合計	週3回	76.24	10.43	3	80.949	0.784	0.503
	週2回	75.27	9.71				
	週1回	74.93	10.29				
	所属しているがほとんど参加	72.38	13.02				

部活動参加状況による，SESスコアの差は確認されなかった

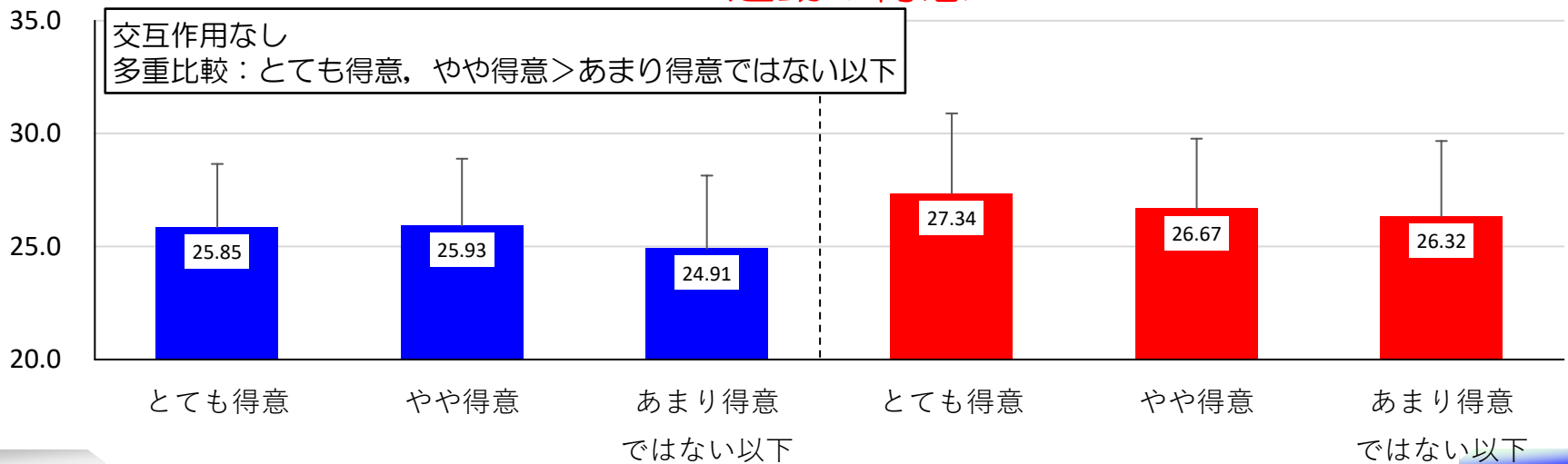
結果（運動等習慣×GRIT）

有意差あり：運動が好き，運動が得意，よく遊ぶ友達の数，ゲーム時間（平日），ゲーム時間（週末）



(GRITスコア)

運動が得意

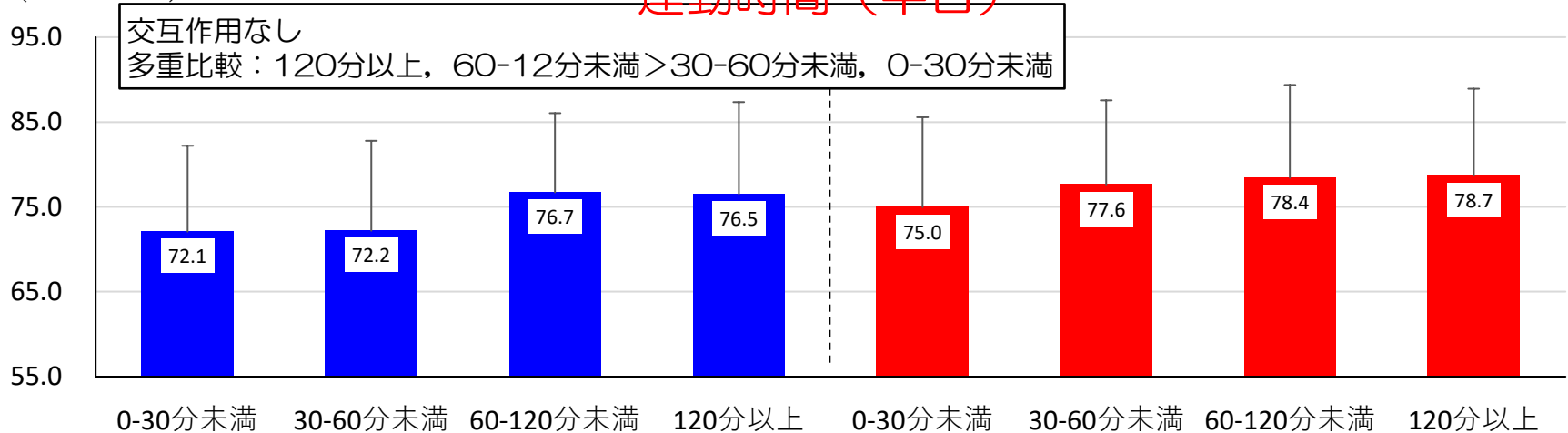


結果（運動等習慣×SES）

有意差あり：運動時間（平日），運動時間（週末），運動が好き，運動が得意，よく遊ぶ友達の数を動かす遊びの頻度，休み時間の外遊び実施，ゲーム時間（平日），ゲーム時間（週末）

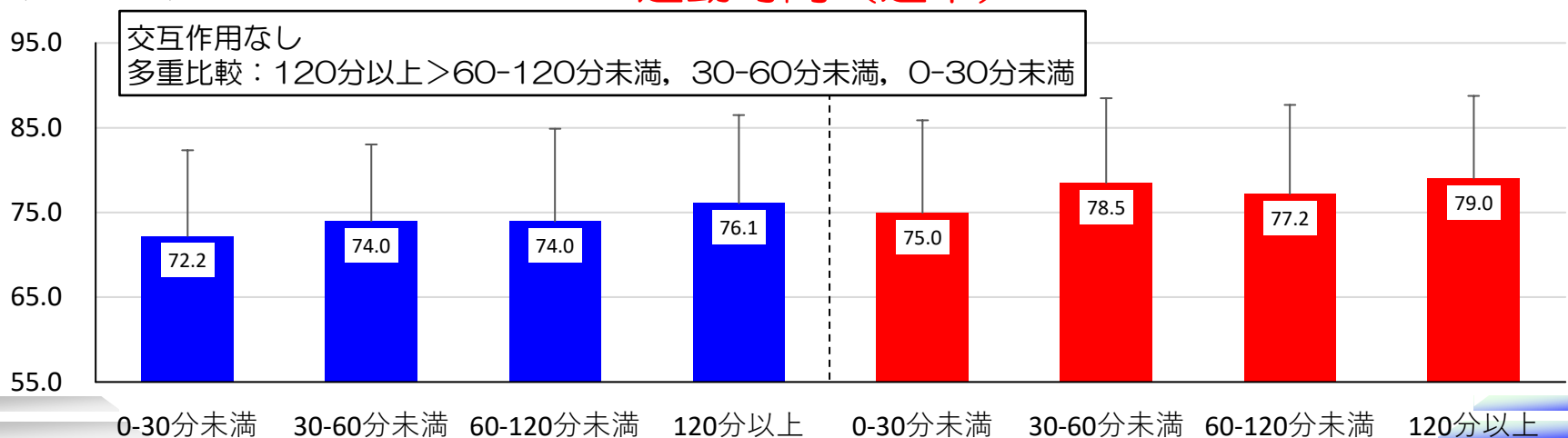
(SESスコア)

運動時間（平日）



(SESスコア)

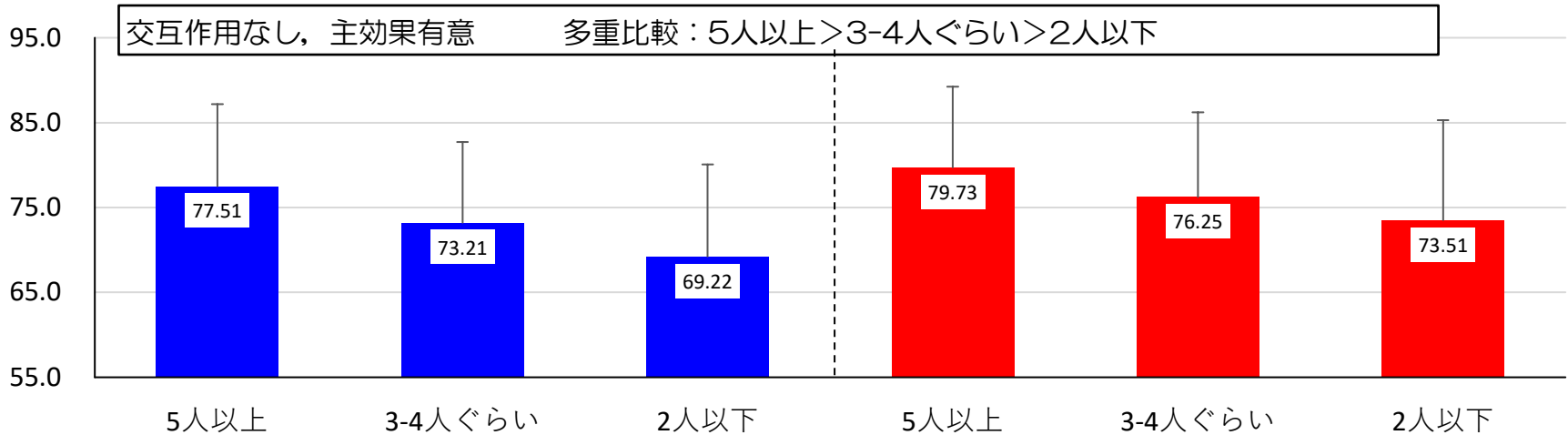
運動時間（週末）



結果（運動等習慣×SES）

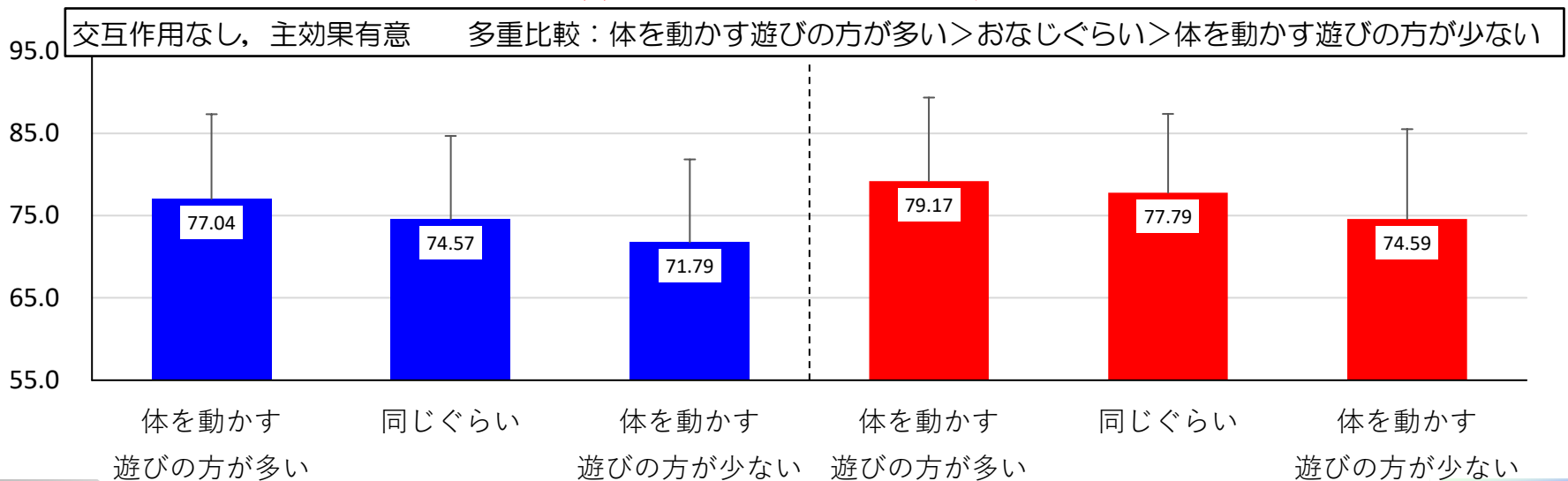
よく遊ぶ友達の数

(SESスコア)



体を動かす遊びの頻度

(SESスコア)



結果（運動等習慣・GRIT/SES×体力）

以下の習慣およびGRIT/SESが良好か不良かの4群間で有意差が確認された

GRITスコア27点以上
（上位3分の1）

&

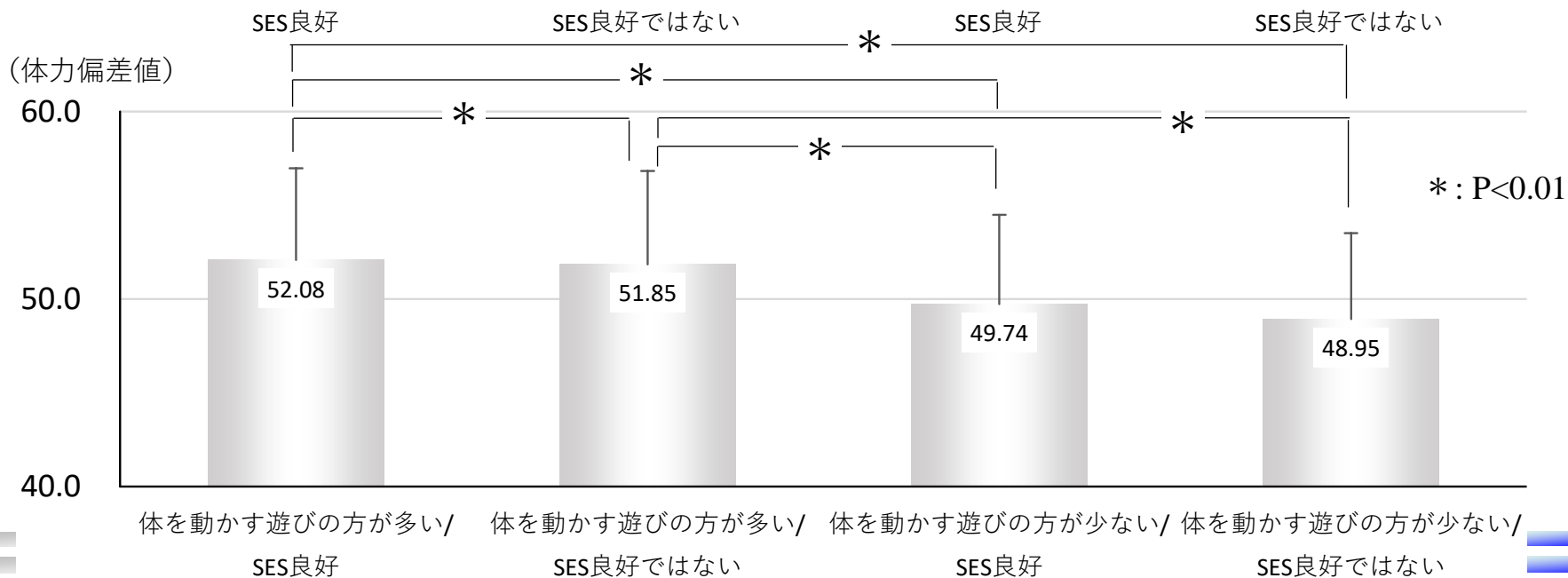
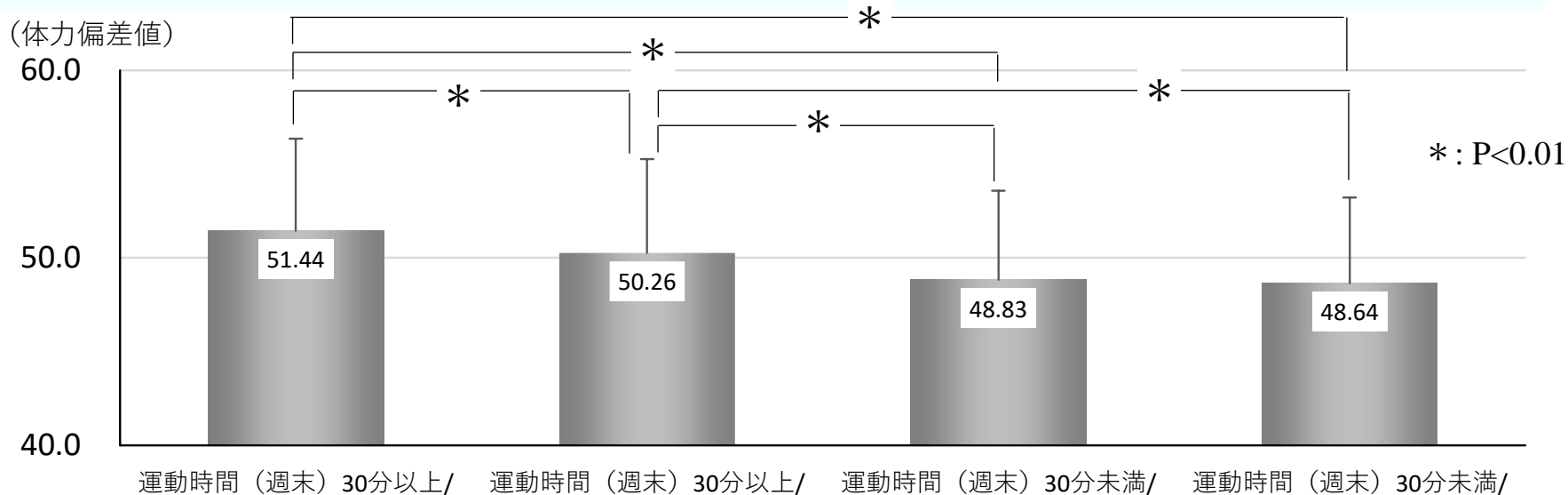
運動がとても好き
運動がとても得意もしくははやや得意
ゲーム時間（平日）が30分未満
ゲーム時間（週末）が120分未満

SESスコア79点以上
（上位3分の1）

&

運動時間（平日）が60分以上
運動時間（週末）が30分以上
運動がとても好き
運動がとても得意もしくははやや得意
よく遊ぶ友達の数が3～4人以上
体を動かす遊びの方が多い
休み時間の外遊びが時々遊ぶ以上
ゲーム時間（平日）が30分未満
ゲーム時間（週末）が120分未満

結果（運動等習慣・GRIT/SES×体力）



結果（運動等習慣・GRIT/SES×体力）

運動等習慣良好

運動等習慣良好

SES良好

SES良好

SES不良

運動等習慣不良

体力偏差値
最上位

体力偏差値
平均以上

体力偏差値
平均未満

多くで有意差

多くで有意差

有意差

まとめ

【部活動参加，運動等習慣によるGRIT, SESスコアの違い】

- ☆ 部活動参加状況によるGRIT, SESスコアの違いは見られなかった。中学，高校と継続することでの違いは今後の検討課題。
- ☆ GRITスコアは，運動が好き，運動が得意，よく遊ぶ友達の数，ゲーム時間（平日/週末）が良好な児童で高くなることが確認された。
- ☆ SESスコアは，本研究で検討したすべての運動等習慣が良好な児童ほど高くなることが確認された。

【運動等習慣およびGRIT, SESスコアの違いによる体力の違い】

- ☆ 運動等習慣が良好かつGRIT/SESスコアが良好な群で最も体力が高く，ついで，運動等習慣が良好でGRIT/SESスコアが良好でない群が高くなっていた。